

1学期が終わり、ほっと一息。2学期が始まるまでの子どものいない期間は、記録を見返して子ども理解を深めたり、研修会に参加するなどして教科指導や生徒指導、学級づくりについての見識を広げたりすることができると思います。夏休み明けの子どもとの出会いを楽しみに、日頃できないことに取り組むことで新たなエネルギーを蓄えて、2学期のスタートに備えましょう。



<小学校>

夏休みの「宝物」を生活や学習に生かす！

子どもたちは、夏休み中に貴重な経験や体験をし、たくさんの「宝物」をもって登校してきます。

これは、2学期の生活や学習を支える大きな原動力となります。



◆「宝物」を紹介し合う場づくりを！

「宝物」を紹介する場や方法を工夫しましょう。

- ・朝や帰りの会で、体験で得た「宝物」をスピーチする。
- ・理科や図工の時間に自由研究や作品を発表する。
- ・「学級だより」等で子どもから得た「宝物」を紹介する等（時間確保が難しいとき）

◆「宝物」を生かした指導の工夫を！

形として表れる成果だけでなく、取組の過程で味わった成功や失敗した時の気持ち、発見や感動なども「宝物」です。

こうした情報を日記や会話等から事前にキャッチし、学習への興味・関心につなげたり、学習問題の設定等に生かしてみたりしましょう。

夏休みの子どもの取組を褒める言葉を保護者にも届ける

多くの保護者が、我が子を取り組んだ夏休みの力作を担当がどう認めてくれたかに注目しています。

そこで、作品は返却できなくても、たとえば

- 提出された休み帳や計画表などに、休み中のがんばりや作品の良さに触れたコメントを書き、できる限り早めに返却する。
- 学級通信で、がんばりを紹介する。
- がんばりを、プール参観等で保護者に会ったときに話題にしたり、連絡帳に書いたりする。

担任に加えて、保護者が「先生も褒めてくれたね。がんばってよかったね。」と子どもを認めることで、子どもはさらに自信を深め、2学期のスタートに弾みがつきます。

<中学校>



Enjoy Summer と “ならし” 運転

心も体も余裕があった夏休みから、学校生活にいきなり切り替えるのは、大人でもたいへん。ましてや残暑真っ盛りのこの時期、中学生にはかなりの「えい、やっ！」が必要かも。

夏休み明けは不登校傾向が始まる危機もはらんでいます。「夏休み」と「学校」との間に『つなぎ目』を作り、徐々に心や体を“ならし”ましょう。

- 夏休みの後半、学校で学習会を計画し、参加を促しておく。→ 体と心の準備。
- 休み明け、間に合わなかった夏休みの宿題をする時間を確保しておく。→ 心配・不安を軽減。
- ちょっと気になる生徒には「暑中見舞い」を。生徒が「やりきったぞ！」と感じられるよう、計画作りへのアドバイスも大切にしたいものです。



ワールド・カフェで学級懇談会をひと工夫！

「先生の話は聞きたいんだけど、一人ずつしゃべられるのはちょっと・・・」という保護者の意識もあります。ひと工夫の一例として

<ワールド・カフェの方法> ※実態に合わせてアレンジ可

- 1 **テーマ確認** 話し合うテーマを確認します。
例) 「インターネットの約束」
- 2 **移動・(コーヒー用意)** 各自用意して、4人ずつ机を合わせてテーブルを作ります。
※各テーブルには、模造紙とマジックを配布
- 3 **第1ラウンド開始** (10～15分) テーマに沿って自由に討議。発言のたびに、要点的に模造紙にメモを残す。
- 4 **移動** 各テーブル1人だけ残り、他の3人は別のテーブルへ自由に移動する。
- 5 **第2ラウンド開始** (10～15分) 残った人から、第1ラウンドの経過を聞いた後、新しい4人組でさらに討議を深める。
- 6 **第3ラウンド開始** (10～15分) 第2ラウンドの繰り返し
- 7 **振り返り** もとの席に戻り、模造紙を見ながら、振り返りを行う。

*ワールド・カフェは、生徒の学習活動にも応用できます。